

安定タイプの運用状況

※過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

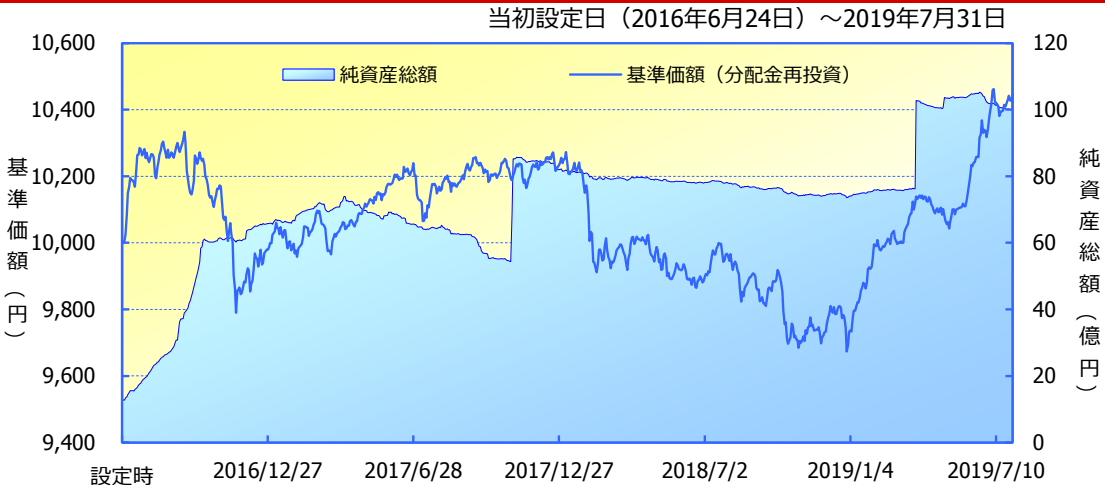
「基準価額・純資産の推移」

2019年7月31日現在

基準価額	10,444 円
純資産総額	100億円

期間別騰落率

期間	ファンド
1か月間	+1.2 %
3か月間	+3.3 %
6か月間	+5.2 %
1年間	+4.9 %
3年間	+1.8 %
5年間	-----
年初来	+7.3 %
設定来	+4.4 %



※「基準価額（分配金再投資）」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（7ページ目の「ファンドの費用」をご覧ください）。
※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「基準価額（分配金再投資）」を用いた騰落率を表しています。
※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

「分配の推移」
(1万口当たり、税引前)

決算期（年/月）	分配金
第1期 (17/06)	0円
第2期 (18/06)	0円
第3期 (19/06)	0円
分配金合計額	設定来：0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

「主要な資産の状況」
※比率は、純資産に対するものです。

組入ファンド別構成		通貨別構成	
ファンド名	比率	通貨	比率
国内株式ファンド	3.2%	日本円	88.7%
先進国株式ファンド	3.2%	米ドル	8.9%
新興国株式ファンド	3.1%	ユーロ	1.3%
国内REITファンド	4.9%	豪ドル	0.4%
先進国REITファンド	4.9%	英ポンド	0.3%
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド	53.2%	シンガポール・ドル	0.2%
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド	26.6%	香港ドル	0.1%
コールローン、その他	1.0%	カナダ・ドル	0.1%
		ニュージーランド・ドル	0.0%
		その他	0.0%
合計	100.0%	合計	100.0%

※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。
※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。
※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

「ファンドマネージャーのコメント」
※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

【投資行動】
ほぼ基本配分比率通りの資産配分を維持しました。

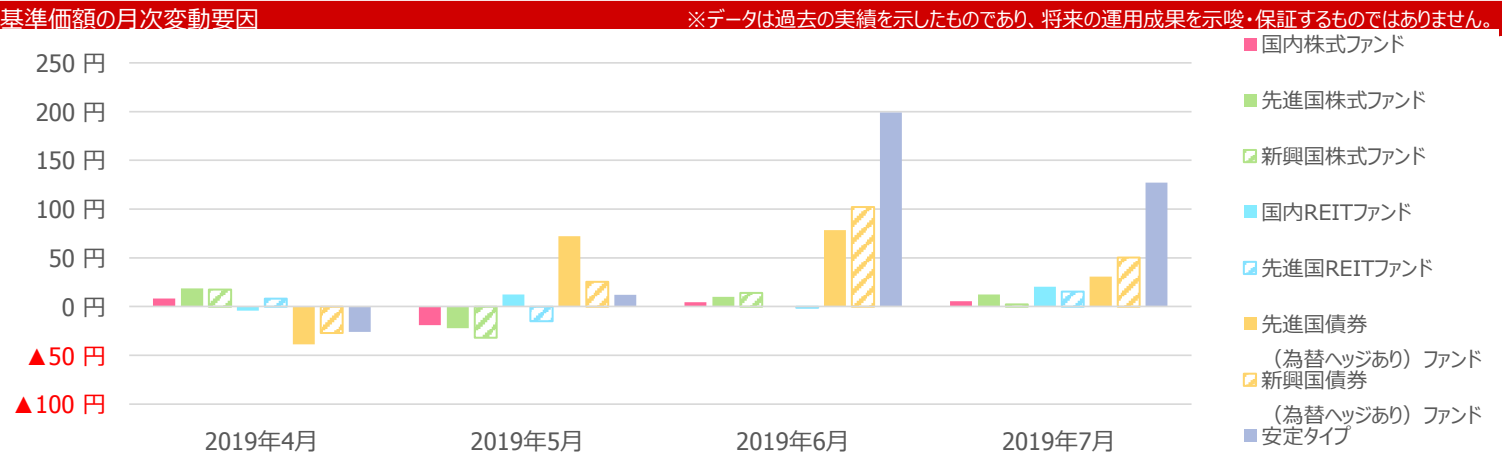
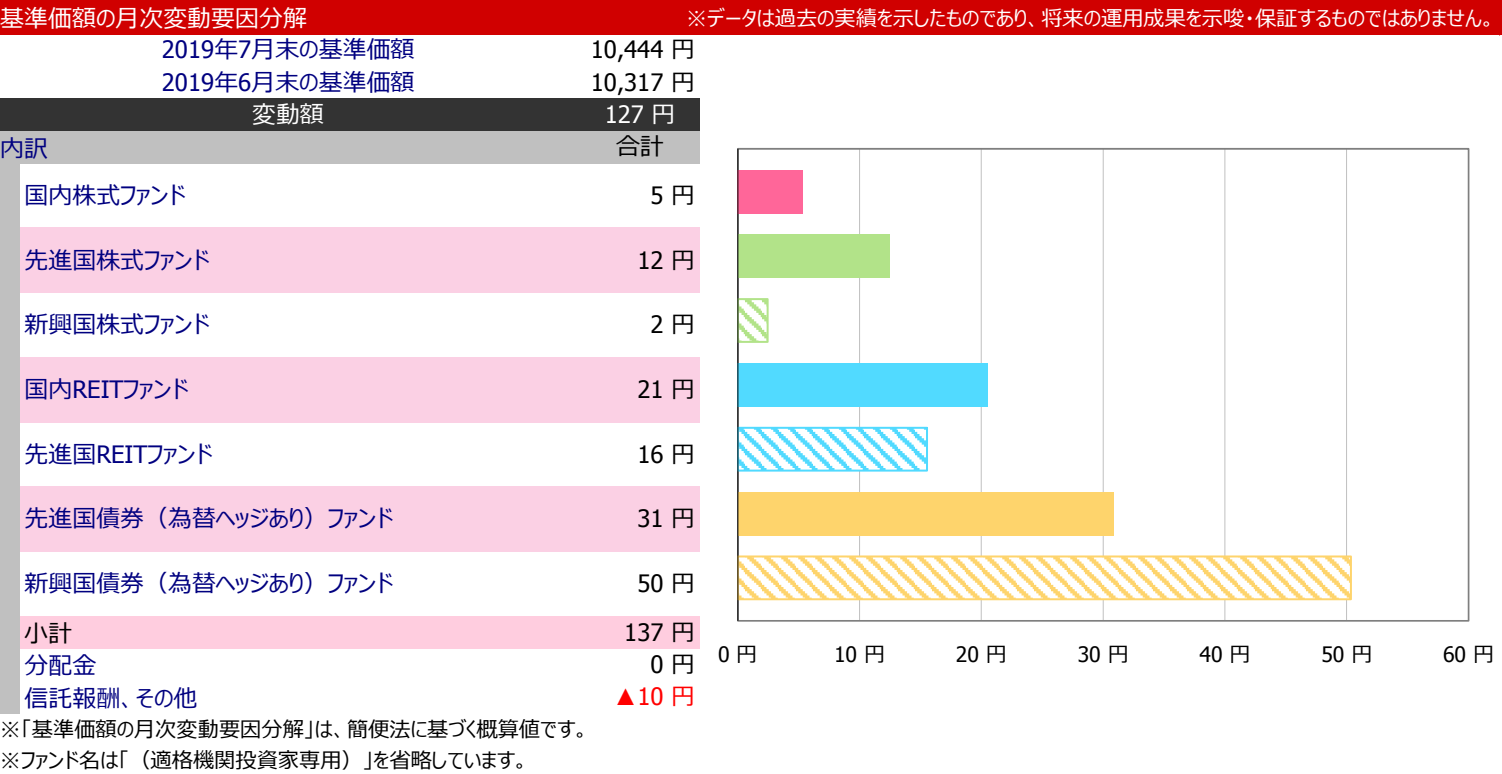
【パフォーマンス】
世界的に金融政策が緩和方向にある中、先進国債券（為替ヘッジあり）ファンドや新興国債券（為替ヘッジあり）ファンドが上昇したことで、ファンド基準価額は月間で上昇となりました。

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするためにワイエムアセットマネジメントにより作成されたものです。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって投資元本が保証されているものではありません。当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書（交付目論見書）を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上ご自身で判断ください。8ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

安定タイプの運用状況

組入ファンドの騰落率				※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。			
投資信託証券（ファンド名）	運用会社名	主な投資方針	騰落率				設定来
			1か月間	3か月間	6か月間		
国内株式ファンド	大和証券投資信託委託	国内の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+1.6%	-3.0%	+2.3%		+38.3%
先進国株式ファンド		日本を除く先進国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+3.8%	-0.2%	+12.8%		+59.5%
新興国株式ファンド		新興国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+0.8%	-5.1%	+2.2%		+44.6%
国内REITファンド		国内のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+4.1%	+6.7%	+11.4%		+30.4%
先進国REITファンド		日本を除く先進国のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+3.1%	-0.4%	+7.3%		+22.5%
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド		先進国通貨建ての債券を主な投資対象とし、日本を除く先進国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	+0.6%	+3.4%	+4.5%		+0.4%
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド		新興国の国家機関が発行する米ドル建ての債券を主な投資対象とし、新興国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	+1.8%	+6.7%	+7.3%		+5.1%

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。



成長タイプの運用状況

※過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

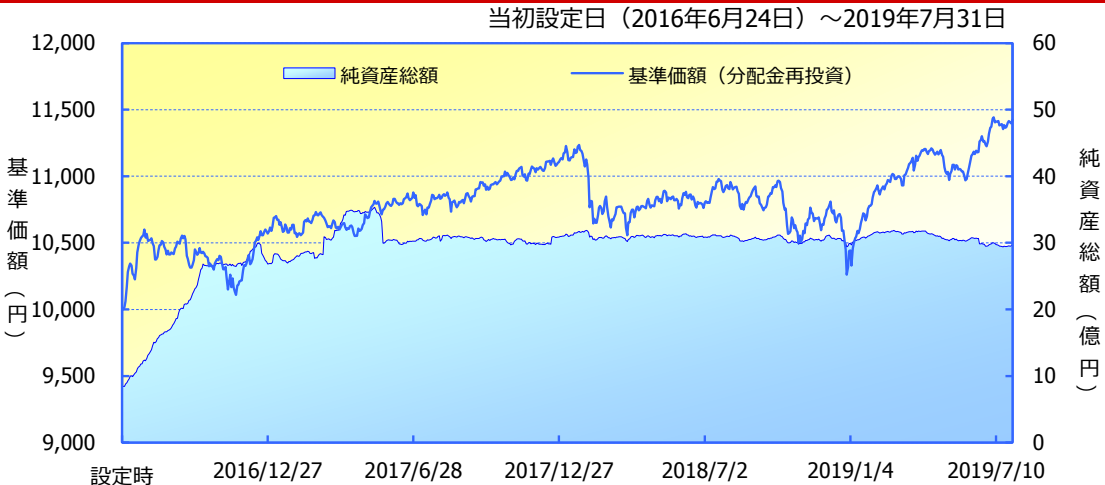
「基準価額・純資産の推移」

2019年7月31日現在

基準価額	11,425 円
純資産総額	29億円

期間別騰落率

期間	ファンド
1か月間	+1.8 %
3か月間	+2.0 %
6か月間	+5.9 %
1年間	+4.7 %
3年間	+8.6 %
5年間	-----
年初来	+9.4 %
設定来	+14.3 %



※「基準価額（分配金再投資）」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（7ページ目の「ファンドの費用」をご覧ください）。
※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「基準価額（分配金再投資）」を用いた騰落率を表しています。
※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

「分配の推移」
(1万口当たり、税引前)

決算期（年/月）	分配金
第1期 (17/06)	0円
第2期 (18/06)	0円
第3期 (19/06)	0円
分配金合計額	設定来： 0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

「主要な資産の状況」
※比率は、純資産に対するものです。

組入ファンド別構成

ファンド名	比率
国内株式ファンド	8.2%
先進国株式ファンド	8.3%
新興国株式ファンド	8.1%
国内REITファンド	12.4%
先進国REITファンド	12.4%
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド	33.1%
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド	16.5%
コールローン、その他	1.0%
合計	100.0%

※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。
※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。
※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

通貨別構成

通貨	比率
日本円	71.1%
米ドル	23.4%
ユーロ	2.8%
豪ドル	0.9%
英ポンド	0.6%
シンガポール・ドル	0.5%
香港ドル	0.3%
カナダ・ドル	0.3%
ニュージーランド・ドル	0.1%
その他	0.0%
合計	100.0%

「ファンドマネージャーのコメント」
【投資行動】
ほぼ基本配分比率通りの資産配分を維持しました。
【パフォーマンス】
世界的に金融政策が緩和方向にある中、国内REITファンドや先進国REITファンドが上昇したことで、ファンド基準価額は月間で上昇となりました。

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

成長タイプの運用状況

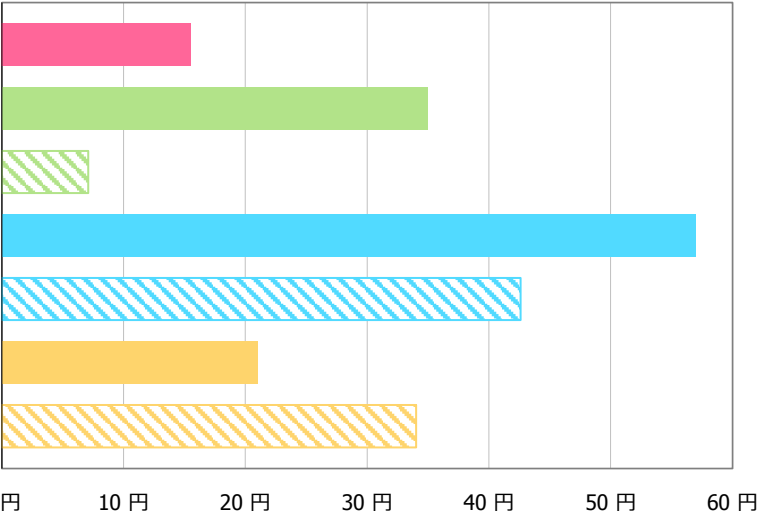
組入ファンドの騰落率 ※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

投資信託証券（ファンド名）	運用会社名	主な投資方針	騰落率			
			1か月間	3か月間	6か月間	設定来
国内株式ファンド	大和証券投資信託委託	国内の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+1.6%	-3.0%	+2.3%	+38.3%
先進国株式ファンド		日本を除く先進国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+3.8%	-0.2%	+12.8%	+59.5%
新興国株式ファンド		新興国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+0.8%	-5.1%	+2.2%	+44.6%
国内REITファンド		国内のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+4.1%	+6.7%	+11.4%	+30.4%
先進国REITファンド		日本を除く先進国のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+3.1%	-0.4%	+7.3%	+22.5%
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド		先進国通貨建ての債券を主な投資対象とし、日本を除く先進国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	+0.6%	+3.4%	+4.5%	+0.4%
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド		新興国の国家機関が発行する米ドル建ての債券を主な投資対象とし、新興国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	+1.8%	+6.7%	+7.3%	+5.1%

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

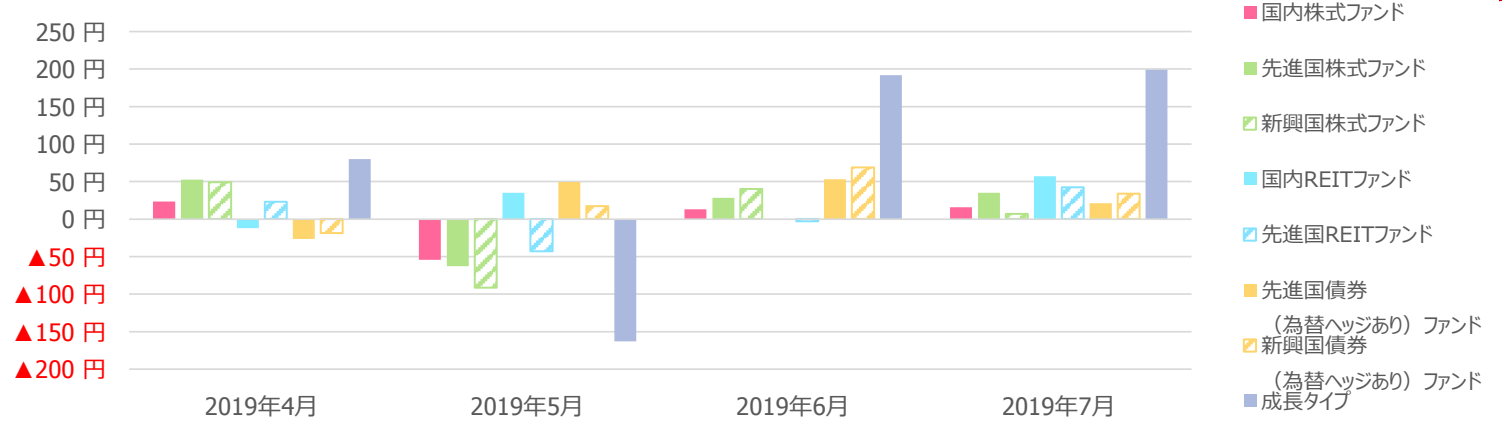
基準価額の月次変動要因分解 ※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

2019年7月末の基準価額	11,425 円
2019年6月末の基準価額	11,226 円
変動額	199 円
内訳	合計
国内株式ファンド	16 円
先進国株式ファンド	35 円
新興国株式ファンド	7 円
国内REITファンド	57 円
先進国REITファンド	43 円
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド	21 円
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド	34 円
小計	212 円
分配金	0 円
信託報酬、その他	▲13 円



※「基準価額の月次変動要因分解」は、簡便法に基づく概算値です。
※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

基準価額の月次変動要因 ※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。



(国内株式)
国内株式市場は上昇しました。上旬は、6月末に行われた米中首脳会談において米国の対中強硬姿勢の緩和が好感され大きく上昇しました。中旬は、国内外の経済指標が強弱入り交じる中、7月FOMC（米国連邦公開市場委員会）での利下げ期待などから株価は横ばいで推移しました。下旬にかけては、本格化した2019年4-6月期決算は減益決算が目立つ内容であったものの、おおむね事前に想定された水準であったことなどから、引き続き横ばい圏で推移しました。

(先進国株式)
先進国株式市場は上昇しました。上旬は、米中貿易協議再開や世界的な金融緩和期待を背景に、上昇して始まりました。その後は、FOMCの利下げ幅や継続性をめぐってやや乱高下する局面もありました。下旬にかけて、米国株は堅調な企業決算に支えられ高値圏で推移しましたが、欧州株は軟調な経済指標により上値を抑えられました。

(新興国株式)
新興国株式市場は、米中貿易摩擦がくすぶり続けて上値が重い展開となりました。政府予算案や課税問題が悪材料となったインド、一部企業の決算が失望されたタイなどは軟調でした。韓国も日本の一部ハイテク向け材料の輸出規制見直しを受けて下落しました。一方、ロシア製ミサイル購入に対して、米国による制裁の回避期待が高まったトルコは買われました。

(国内リート)
国内リート市場は上昇しました。世界的に金融政策が緩和方向にある中、各国の長期金利が低水準で推移したことにより、国内リート市場の相対的に高い配当利回りに注目した資金流入が上昇を支えました。東証REIT指数（配当除く）は、終値ベースで7月11日に2007年12月以来の2,000ポイントを回復し、月末を迎えました。

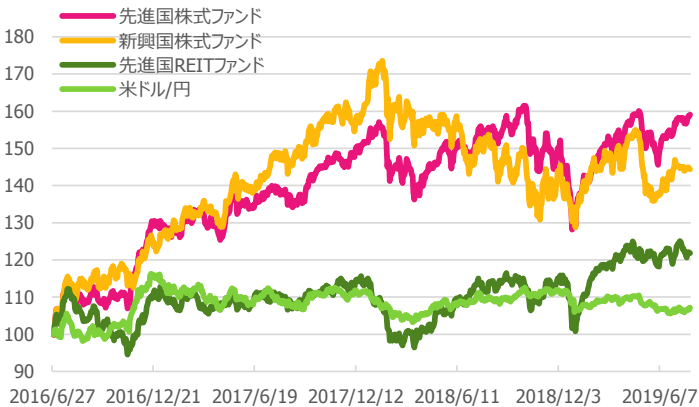
(先進国リート)
海外リート市場は、総じて堅調な展開となりました。米国は、FRB（米国連邦準備制度理事会）による利下げ観測や、好調な住宅市場などが支援材料となり、堅調に推移しました。欧州では、ECB（欧州中央銀行）による金融緩和期待や、好調なオフィス市況などから、フランスやドイツ中心に上昇しました。アジア・オセアニアでは、低金利の長期化見通しが好感されたオーストラリアは上昇しましたが、デモの影響が懸念された香港は軟調に推移しました。

(先進国債券)
先進国債券市場では、国ごとにまちまちの動きとなりました。米国やカナダでは堅調な経済指標を背景に、金利は上昇しました。その他の国については、ユーロ圏での金融緩和観測の強まりなどを受けて、金利はおおむね低下しました。

(新興国債券)
米ドル建て新興国債券に関しては、スプレッド（米国債との利回り格差）はおおむね縮小傾向となりました。先進国での金融緩和観測に加えて、多くの新興国でも金融政策が緩和方向へシフトしたことなどから金利が低下し、スプレッドは縮小しました。トルコでは、市場予想以上の利下げや米国による制裁懸念の後退がスプレッド縮小要因となりました。インドネシアでは中央銀行による利下げが行われたことを背景に、ブラジルでは年金改革法案の成立期待が高まったことなどから、スプレッドはそれぞれ縮小しました。

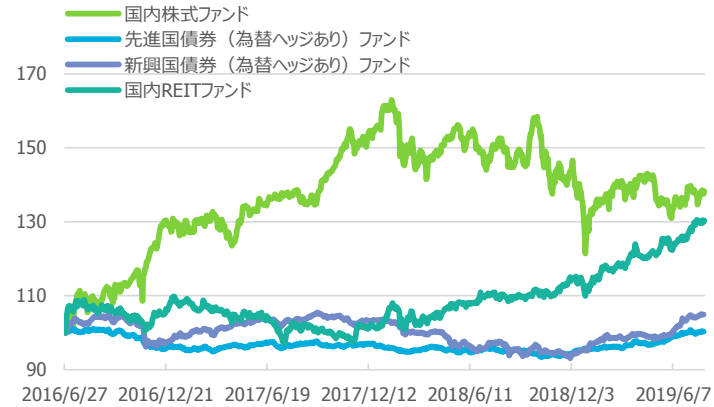
(為替)
為替市場では、通貨によってまちまちの動きとなりました。堅調な経済指標が見られたことで、米ドルやカナダ・ドルは対円で上昇しました。一方、ユーロは金融緩和観測が強まったこと、英ポンドは合意なきEU（欧州連合）離脱への懸念が高まったことを受けて対円で下落するなど、欧州通貨は軟調な推移となりました。
新興国通貨は、全体としては対米ドルでまちまちの値動きとなりました。原油価格の下落を受けて、ロシア・ルーブルは売られました。韓国ウォンは、日韓関係の悪化などが嫌気されて軟調でした。米国による制裁の回避見通しが強まったことでトルコ・リラは買われました。円は、米経済が相対的に堅調なことからFRBの大幅利下げ観測が後退したため、対米ドルで円安となりました。結果として、円は対新興国通貨全体では円安となりました。

組入ファンド（為替ヘッジなし）と為替の価格の推移



※ファンド設定日を基準として指数化しています。

組入ファンド（為替ヘッジありおよび国内資産）の価格の推移

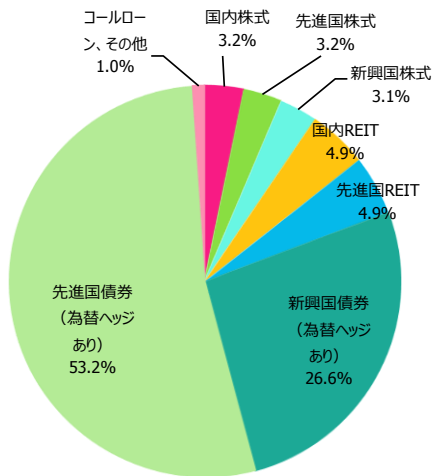


※ 8ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

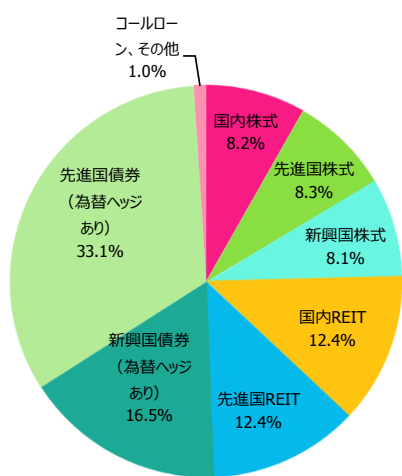
「各コースの資産・通貨別構成と基準価額の比較」

資産別組入ファンド比率（純資産比）

安定タイプ



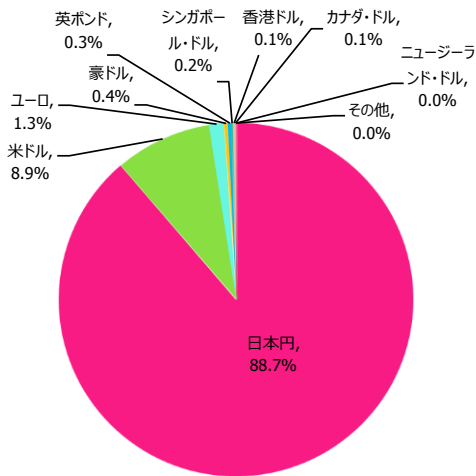
成長タイプ



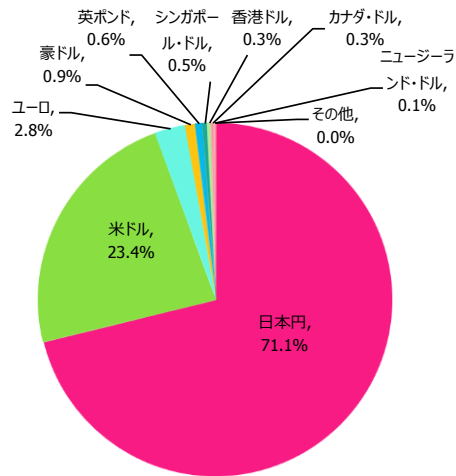
※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

通貨別構成（純資産比）

安定タイプ



成長タイプ



※大和投資信託のデータを基にワイエムアセットマネジメントが計算しています。

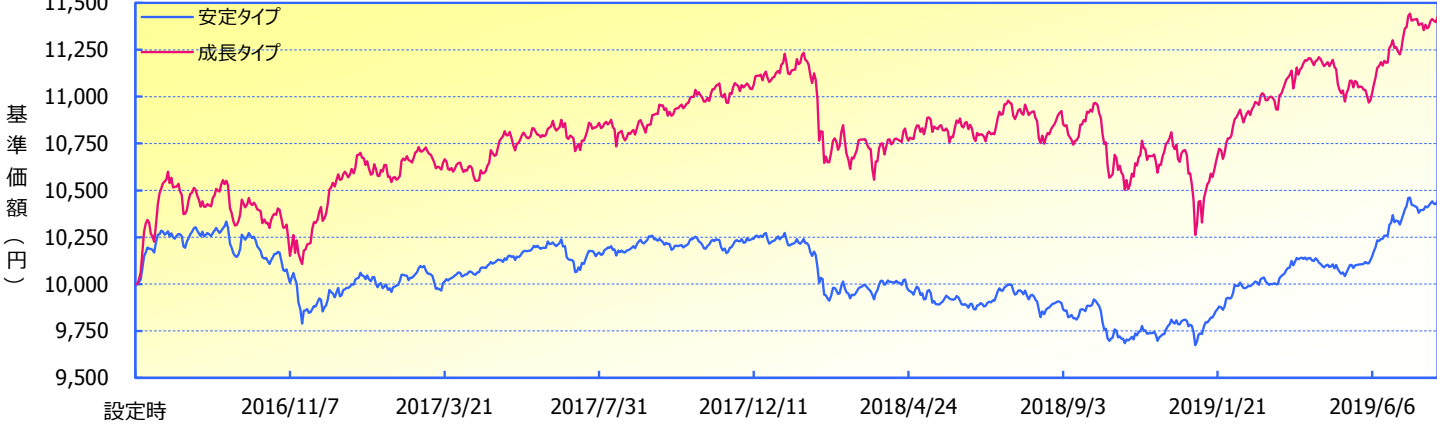
※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

基準価額（分配金再投資）の比較

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

当初設定日（2016年6月24日）～2019年7月31日



※「基準価額（分配金再投資）」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（7ページ目の「ファンドの費用」をご覧ください）。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

「ファンドの目的・特色」

ファンドの目的

- 内外の債券、株式および不動産投資信託証券（リート）に投資し、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。

ファンドの特色

- 1. 複数の投資信託証券への投資を通じて、主として内外の債券、株式および不動産投資信託証券（リート）に投資します。
- 2. 各資産への投資比率が異なる「安定タイプ」と「成長タイプ」の2つのタイプから選択できます。
- 3. 山口フィナンシャルグループの運用会社であるワイエムアセットマネジメント株式会社がファンド運用を行ないます。
- 4. 内外の債券、株式およびリートを実質的な投資対象とする複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。

- ・各ファンドの略称としてそれぞれ次を用いることがあります。
YM アセット・バランスファンド（安定タイプ）：「安定タイプ」
YM アセット・バランスファンド（成長タイプ）：「成長タイプ」
 - ・各ファンドの総称を「YM アセット・バランスファンド」とします。

※詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

「投資リスク」

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「価格変動リスク・信用リスク（株価の変動、公社債の価格変動、リートの価格変動）」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」
※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。
※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。
※詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

「ファンドの費用」

お客さまが直接的に負担する費用			
購 入 時 手 数 料	ありません。		
信 託 財 産 留 保 額	ありません。		
お客さまが信託財産で間接的に負担する費用			
運 用 管 理 費 用 （ 信 託 報 酬 ）	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して次に掲げる率		
	安定タイプ	成長タイプ	
	年率 1.107%（税込）	年率 1.215%（税込）	
	投資対象とする 投 資 信 託 証 券	年率 0.2052%（税込）～年率 0.324%（税込）	年率 0.2052%（税込）～年率 0.324%（税込）
	実質的に負担する 運 用 管 理 費 用	年率 1.380%程度（税込）＊	年率 1.482%程度（税込）＊
そ の 他 の 費 用 ・ 手 数 料	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。 ※「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。		

＊実際の組入状況等により変動します。
※手数料等の合計金額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場不動産投資信託は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。
※詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

«当資料のお取り扱いにおけるご注意»

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするためにワイエムアセットマネジメント株式会社により作成されたものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ
 ▶ ワイエムアセットマネジメント株式会社
 083-223-7124（営業日の9:00～17:00）
 当社ホームページ
 ▶ <http://www.ymam.co.jp/>

«販売会社»

販売会社（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会	
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会
株式会社北九州銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第117号	○	○
株式会社もみじ銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第12号	○	○
株式会社山口銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第6号	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第8号	○	

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。